

第6回香南市子ども議会Q&A



野市中学校
小笠原優李 議員(2年)

Q 香南市も、どんどん人口が減少している中で、これまでと同様の対策や他の自治体でも行われているような取り組みでは、解決につながらないと思いますが、どのような対策を現在考えてられていますか。

A 令和6年に高知県で生まれた子どもの数は3,123人で全国最少でした。香南市でも185人とどまり、少子化と人口減少は大きな課題です。国の児童手当の支給増額といった少子化対策に加え、市では、子どもに対する医療費の拡充や不妊治療費の助成、子育て支援センターの土曜開所、放課後児童クラブの延長など、独自の取り組みを進めています。

さらに、本年度から、「香南市未来戦略」を策定し、暮らしの中で市の魅力を実感し、住み続けたい、あるいは一度市外に出て戻りたいと思える、中長期的な視点から人口減少対策につながるようなまちづくりを目指しています。(市長)

Q 香南市には遊具がある公園が少ないです。もっと子どもが遊べる場所を増やすことはできませんか。



野市小学校
山下凛 議員(6年) 合田茉央 議員(6年)

A 香南市には大小合わせて172か所の公園があり、そのうち、野市町には48か所あります。新しい公園をすぐに増やすのは難しいですが、今ある公園の整理を進め、皆さんが思い切り遊べる場所づくりを考えています。新しい公園を造るには、広い土地の確保や整備、遊具の設置、維持管理に多額の費用がかかるためです。

野市町には、「大谷運動公園」などの遊具が設置された公園が25か所あり、市が造った施設以外にも「県立のいち動物公園」や「創造広場アクランド」といった施設があります。また、香南市全体には、「ヤ・シィパーク」や「月見山こどもの森」など、魅力的な場所が多数あります。野市町から少し離れていますが、ぜひ活用して楽しんでください。(住宅政策課長)



7月25日(金)、香南市議会議場にて第6回香南市子ども議会が開催されました。

この日、議場に立ったのは、市内の小中学校から選ばれた19人の子ども議員たち。緊張の面持ちながらも堂々と、市政に関する質問や自らの提言を市長や担当課長に対して真剣に届けました。

子ども議員からの質問には、濱田豪太市長をはじめ、各担当課長は真摯な姿勢で答え、身近な問題や将来のまちづくりを考える貴重な時間となりました。

※掲載にあたり、発言の一部を誌面用に編集しています



香我美中学校
野口東馬 議長(3年)

香南市の「これから」！
子ども議員が議場に立つ



夜須小学校
吉良千咲 議員(6年) 西峯実乃里 議員(6年)

Q ジェンダーレスで制服に選択肢があるように、ランドセルも選べるようになればいいと思います。高学年になると体が大きくなり、登下校のときに痛くなったりするので、ランドセルかリュックサックか選べるようにすることについて、香南市はどう考えていますか。

A 全国の小学生がランドセルを使っている主な理由は、6年間使える耐久性の高さ、両手が使えて転倒時に頭を守る構造や反射材が付いていることによる安全性の高さ、教科書などをすっきり収納できる大容量で使いやすい構造の3つが考えられます。

しかし、高学年になると体格も成長することから、ランドセルが小さく感じたり、背負い心地が悪くなったりする児童がいることは認識しています。

文部科学省も香南市教育委員会もランドセルの使用を強制しているわけではありません。学校によっては「推奨」している場合もありますが、ランドセルの使用は絶対ではなく、リュックなど他のカバンを使うことも可能です。大切なのは、学校や保護者と話し合い、皆さんが安全に通学できる方法を決めることだと考えています。(学校教育課長)

Q 最近、テレビやインターネットの影響で土佐弁を聞いたり使ったりする機会が減り、少し寂しい気持ちです。土佐弁をもっと多くの人に知ってもらい、大切にしていきたいために、香南市としてどのような取り組みができるのか知りたいです。



野市東小学校
下元悠世 議員(6年) 池澤春茂 議員(6年)

A NHKの連続テレビ小説「あんぱん」のおかげで、土佐弁が全国的に知られるようになってきました。昔に比べて今は、インターネットの普及で日本だけでなく世界と簡単につながることができます。そして、標準語に触れる機会が増え、土佐弁を使うことが減っているのが現状です。

香南市では、このような状況でも土佐弁を大切にしたいため、地域の伝統文化を継承することが重要だと考えています。香南市には「野市音頭」、「佐古音頭」、「山南音頭」、「どろめ音頭」といった踊りがあり、歌詞の中にたくさんの土佐弁が使われています。

こうした伝統文化を守っていくことが、土佐弁の保存と地域の活性化につながると考えており、これらの活動を支援していきます。(市長)

Q 道などにごみのポイ捨てが見られます。みんなで清掃活動などをしてはどうでしょうか。



佐古小学校
立花蓮人 議員(6年) 河野絢星 議員(6年)

A 香南市内のあちこちでポイ捨てが見られます。これは、街の景観を損なうだけでなく、海洋汚染や火災の原因にもなるため、ポイ捨てをなくすことを目指しています。市では、広報誌や看板で啓発活動を行うとともに、市民による清掃活動にも力を入れています。今年6月の一斉清掃では、9.3トンのごみが回収されました。また、ボランティア清掃を行う団体への支援も行っており、昨年度は14団体が20回活動されました。みなさん一人一人がポイ捨てをしないこと、そして清掃活動への積極的な参加をお願いします。(環境対策課長)



吉川小学校
濱田彩椰 議員(6年) 小原愛未 議員(6年)

Q 天然色市場が新しくなったり、世界第2位のうんていがあつたりする天然色劇場を活用する機会が今は少ないと思うのですが、天然色劇場をもっと活用するための取り組みの予定はありますか。

A 吉川町にある約3,500人収容の野外ステージ「天然色劇場」は、毎年恒例の「香南市みなこい港まつり」の会場になるほか、学校行事や音楽イベントに加え、コスプレイベントなどさまざまな用途で利用されています。市は、多くの人に使ってもらえるよう、利用料金の見直しやトイレの洋式化を進め、より使いやすい施設を目指しています。

劇場の周辺には、桜づつみ公園や香南市天然色市場など楽しめる場所がたくさんあります。桜づつみ公園には、長さ102mのうんていや、市の魅力をテーマにした石材看板もあります。

天然色劇場とその周辺の施設をぜひ学校行事やご家族、友人と利用してみてください。(商工観光課長)



赤岡中学校
相ノ谷知希 議員(3年)

Q 学校で介助犬について学び、年間約25万円の自己負担費用がかかることを知りました。香南市には、介助犬と生活する上での助成金や、市が協力する取り組みはありますか？

A 国内で活躍する介助犬は22都道府県で57頭と少なく、高知県については今年4月現在、1頭もいません。まだまだ認知度も低く、利用者も少ないため、香南市を含む高知県内には介助犬利用への助成制度はありません。しかし、これから介助犬への理解が広がり、利用希望者が増えれば、市として助成を検討していく考えです。

香南市では、介助犬をはじめとする補助犬への理解を深めるため、広報誌「こうなんNOW」8月号に記事を掲載し、認知度向上に取り組んでいます。ぜひ、ご覧ください。(福祉事務所長)